

急性肺損傷・急性呼吸窮迫症候群（急性呼吸促迫症候群）

英語名：ALI（acute lung injury）・ARDS（acute respiratory distress syndrome）
同義語：成人型呼吸窮迫症候群（成人型呼吸促迫症候群）

患者の皆様へ



ここでご紹介している副作用は、まれなもので、必ず起こるものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、より安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡してください。

動脈血液中に酸素が取り込みにくくなり、急な息切れや呼吸困難^{こきゅうこんなん}などが出現する「急性肺損傷・急性呼吸窮迫症候群」は、^{きゅうせいはいそんしょう} ^{きゅうせいこきゅうきゅうはくしょうこうぐん} 医薬品によって引き起こされる場合もあります。

主に抗がん剤、抗リウマチ薬、血液製剤などでみられることから、何らかのお薬を服用していて、または輸血していて、次のような症状がみられた場合には、放置せずに医師・薬剤師に連絡してください。

「息が苦しい」、^{せき} ^{たん} 「咳・痰がでる」、「呼吸がはやくなる」、「脈がはやくなる」

1. 急性肺損傷 (ALI)・急性呼吸窮迫症候群 (急性呼吸促進症候群) (ARDS) とは？

敗血症 (血液中に細菌などが入って増殖する状態) や肺炎などの経過中や、誤嚥 (食べ物などを飲み込む時に誤って気道に入ってしまうこと) や多発外傷 (体の複数の箇所に損傷を受けた状態) などの後に、急に息切れや呼吸困難が出現し、胸部の X 線写真で左右の肺に影 (浸潤影) がみられる病態を言います。動脈血液中の酸素分圧 (Pao₂) が低下し (低酸素血症)、その程度に応じて、ALI または ARDS と呼ばれます。

注) 同じような状態を示す病態に左心不全があり、しばしば判別 (鑑別) が困難なこともありますが、病態の発生メカニズムは全く異なります。

ALI あるいは ARDS の場合の低酸素血症に対しては、酸素吸入だけでは改善は不十分で、人工呼吸器の装着を余儀なくされることも多く、予後の悪い病態です。

医薬品が関係する ALI または ARDS には、抗がん剤、抗リウマチ薬などによるもの、また、血液製剤によるものがあります。

2. 早期発見と早期対応のポイント

「息が苦しい」、「咳・痰がでる」、「呼吸がはやくなる」、「脈がはやくなる」 場合で、医薬品を服用している、または輸血している場合には、放置せずに担当医師又は薬剤師に連絡をとり、ただちに受診してください。

また、輸血中もしくは輸血後数時間以内に上記と同様の症状を認めた場合にも、すみやかに医師又は看護師などに連絡してください。

※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、このホームページにリンクしている独立行政法人医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページの、「添付文書情報」から検索することができます。

<http://www.info.pmda.go.jp/>

